

令和5年度ウェザリング技術研究成果発表会開催のご案内

- 主催 一般財団法人日本ウェザリングテストセンター
- 協賛 一般社団法人日本塗料工業会, 日本プラスチック工業連盟,
一般社団法人日本防錆技術協会, 公益財団法人スガウェザリング技術振興財団
- 開催日 令和5年11月29日(水), 11月30日(木) 2日間
- 会場 第1日(11月29日) 東京国際フォーラム G510 及び Zoom ウェビナーによるハイブリッド開催
第2日(11月30日) 銚子暴露試験場

参加料 参加料は、請求書をお受け取り次第お支払いください。

	賛助会員	その他
第1日(11月29日)のみ	無料	1,000円
第1, 第2日(11月29日, 11月30日)2日間	2,000円	3,000円

※ 消費税込み。請求書不要な方は、申込時にお知らせください。

振込先

三菱UFJ銀行	田町支店	普通預金 4000970
三井住友銀行	丸の内支店	当座預金 1015235
みずほ銀行	浜松町支店	普通預金 1185106

口座名：一般財団法人日本ウェザリングテストセンター

※ お振込手数料は貴社にてご負担ください。

参加申込 当財団 web サイト上の発表会ページ(<http://www.jwtc.or.jp/seminar/>)でお申し込みください。

※申し込みにはGoogle フォームを利用しております。

参加申込 QR コード

Google フォームの利用ができない場合は、発表会ページにある申込様式(Word)にご記入のうえ、事務局までメールでご連絡ください。



- 留意事項
- 参加申込締切日は、11月22日迄とし、定員は会場40名、オンライン200名とします。
 - 第2日(11月30日)の参加定員は15名とします。交通の詳細は、別途ご案内いたします。
 - 申込受付を事務局にて確認後、参加申込者宛にメールにてご連絡いたします。
 - 配信 URL (オンライン参加の方) 及びテキストは、前日までにメールにてお知らせいたします。
 - 正規受付後のキャンセルは致しかねますので、あらかじめご了承ください。

プログラム

11月29日(水)

東京国際フォーラム G510

時 間	テ ー マ・講 師 (敬称略)
12:30~12:35	開会挨拶 当財団 理事長 西方 篤
12:35~13:35	積雪環境下における鋼材の埋雪深さが腐食挙動および鋼中水素量に与える影響 株式会社神戸製鋼所 衣笠 潤一郎
13:35~13:45	休憩
13:45~14:45	プラスチック材料の耐候性評価に関する研究 山梨県産業技術センター 尾形 正岐
14:45~15:00	休憩
15:00~16:00	東アジアにおける炭素鋼の大気暴露試験解析および 局所重み付き部分最小二乗回帰による腐食量予測の高精度化 J F E スチール株式会社 面田 真孝
16:00~16:10	休憩
16:10~17:10	市場再現性の高い促進耐候性試験の開発 関西ペイント株式会社 松田 健
17:15~17:20	閉会挨拶 当財団 事務局

11月30日(木)

銚子暴露試験場見学会

時 間	テ ー マ・講 師 (敬称略)
13:00~15:45	銚子暴露試験場設備機器の説明及び見学耐候性に関する質疑応答 当財団 銚子暴露試験場 職員

発表の概要

積雪環境下における鋼材の埋雪深さが腐食挙動および鋼中水素量に与える影響	株式会社神戸製鋼所 衣笠 潤一郎
<p>近年の研究で積雪環境下でも鋼材の腐食が進行することが報告されている。本研究では積雪環境下において鋼材の埋雪深さが腐食量、および鋼中に侵入する水素量に与える影響を検討した。腐食量は地面から受ける熱の影響によって鋼材表面での融雪状態に差異が生じ、腐食挙動に影響を与えると推察された。一方、水素量は鋼材表面での主たるカソード反応が酸素還元であるため、腐食量と増加とは相関せずほぼ一定値となると考えられた。</p>	
プラスチック材料の耐候性評価に関する研究	山梨県産業技術センター 尾形 正岐
<p>プラスチック試験片に対し、メタルハライドランプ式耐候性試験機により照射を行った場合の屋外暴露 1~3 年に相当する照射時間を推定した。劣化状況は、耐候性試験機による照射と屋外暴露では異なり、耐候性試験機による照射では着色物質の生成や分子の切断が試験片表面で急速に促進されて表面付近でとどまっていたのに対し、屋外暴露では着色物質の生成や分子の切断が比較的緩やかに進み、試験片内部まで及んでいた。</p>	
東アジアにおける炭素鋼の大気暴露試験解析および局所重み付き部分最小二乗回帰による腐食量予測の高精度化	J F E スチール株式会社 面田 真孝
<p>今後発展が予想される東アジアにおける鋼構造物の維持管理のために、地域毎の腐食評価は重要である。評価方法として、大気暴露試験が最も一般的だが、外挿による腐食量評価には数年から 10 年程度の時間を要する課題がある。そこで、本研究では過去の大気暴露試験の腐食および環境データに対して、局所重み付き部分的最小二乗回帰 (LW-PLS) を適用することで、鉄鋼材料の長期腐食量を高精度で予測する技術を確立した。</p>	
市場再現性の高い促進耐候性試験の開発	関西ペイント株式会社 松田 健
<p>光/水/熱は屋外暴露における材料劣化の 3 大負荷因子だが、酸/塩/ダストといった汚染物質の影響も無視できない。考案した促進試験法は「汚染物質の種付け」と「キセノン促進試験機を用いた光照射」を複合化したものであり、ISO/JIS 等で規格化された既存の促進耐候性試験に比べ、屋外暴露における塗膜劣化の再現性が飛躍的に向上し、試験時間の短縮をも可能とした。その概要について報告する。</p>	

【発表会に関するお問い合わせ】

一般財団法人日本ウエザリングテストセンター 〒105-0011 東京都港区芝公園 1-1-11
TEL : 03-3434-5528 FAX : 03-3434-5529
E-mail : seminar@jwtc.or.jp